

平成 29 年 7 月 19 日



足立議員が被災地視察

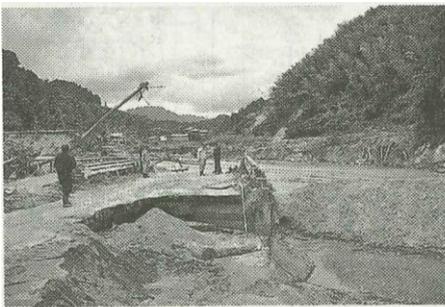
足立敏之参院議員は、15日から17日にかけて、2017年九州北部豪雨の被災地を視察した。写真、大規模な土砂崩落が発生し、「土砂ダム」となった大分県日田市の小野地区や、建設中の小石原川ダム、流木により大きな被害を被った朝倉市などを視察した。

関連8面

視察を終えた足立議員は「国難と言える状況だ。建設業界と国土交通省が総力戦で、被災地の期待に応えてほしい。私も国政でできるだけサポートしたい」と復旧に向けた決意を語った。

足立議員 豪雨被災地を視察 地元企業をねぎらう

足立敏之参院議員は17日、



2017年九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市を視察した。写真、大量の流木をせき止めた寺内ダムや建設中の小石原川ダム、市街地の流木被害、氾濫した桂川や赤谷川などの被害状況を把握した。応急復旧工事に尽力している地元建設企業とも会談した。

11面参照

寺内ダムは、洪水に対して防災操作を実施したほか、ダム湖が大量の流木を捕捉した

ため、ダム下流地域の被害を最小限に抑えた。

小石原川ダムは、本体工事を鹿島・竹中土木・三井住友建設JVで施工している。堤体の基礎を終え、監査廊の施工途中に被災した。堤体河床までの深さ20mが浸水し、水中ポンプを22台設置するなどして1週間で復旧し、14日から工事を再開した。被災による工期への影響もないという。今後は工事用道路の復旧を急ぎ、堤本体の着工に備える。

足立議員は洪水におけるダムの効果を確認し、小石原川ダムについては「施設がある

ことで住民の安心につながる。1日も早く完成してほしい」とした。

この後、氾濫した桂川や、土砂がたまり使えなくなった国史跡の三連水車、赤谷川などを視察した。赤谷川では、被災状況に言葉を使い「経験したことがない大きな被害。福岡県知事が権限代行を国に要請したのもうなずける」と述べた。また、堤防が決壊し市街地に流木被害を招いた農業用のため池では、「津波のよつだ」その破壊力に驚き、「寺内ダムなどと対照的。もつとしっかりとした施設だったら」と悔しがった。

途中、福岡県土木組合連合会朝倉支部に立ち寄り、平田立身支部長ら地元建設企業と会談した。平田支部長は福岡県の災害協定に基づき、会員企業が応急復旧に励んでいる現状を報告した。足立議員は「大変だと思っが、建設業の力の見せ所。全力で頑張っほしい」とねぎらった。

視察を終えた足立議員は、今後本格化する復旧工事について「技術的に厳しが、国は県の期待に応えてほしい。建設業界は早期復旧に向けて大手、中堅、地元企業が連携し頑張ることを期待する」とした。